

エコへるす

〇〇●●長野県環境保全研究所ニュース 平成28年(2016年)2月29日発行 ●●〇〇
 安茂里庁舎 〒380-0944 長野市安茂里米村 1978 TEL.026-227-0354 FAX.026-224-3415
 飯綱庁舎 〒381-0075 長野市北郷 2054-120 TEL.026-239-1031 FAX.026-239-2929
<http://www.pref.nagano.lg.jp/kanken/index.html> Email : kanken@pref.nagano.lg.jp

最近の話題

新たな気候変動適応策の研究がスタート!!

2015年11月30日から、パリでCOP21(気候変動枠組条約第21回締約国会議)が開催され、「パリ協定」が採択されました。パリ協定では、気温上昇を産業革命前に比べて1.5℃未満に抑えるよう努力し、世界全体の温室効果ガス排出量を今世紀後半には実質的にゼロにすることを目指しています。このような温暖化対策は「緩和策」と呼ばれています。

一方、今後最大限の緩和策を進めたとしても、大気中に蓄積されている温室効果ガスの効果によって、数十年程度は気温上昇はとまらないと予測されています。こうした将来の気温上昇に対して備えておく対策も必要です。この対策を「適応策」と呼んでいます。「適応策」は「緩和策」と並び、温暖化対策の両輪として世界的には進んでいます。

日本では、COP21開催の直前に、「気候変動の影響への適応計画」が閣議決定され、ようやく「適応策」のスタートラインに立ちました。気候変動の影響は地域によって現れ方が異なるため、適応策も地域毎に異なります。適応策を進めるためには、地域における詳細な気候変動とその影響予測を行い、その予測結果に応じて適応策を検討し、それを社会へ実装するというステップが想定されます。文部科学省では、地域の気候変動予測から適応策の社会実装までを研究目的とした「気候変動適応技術社会実装プログラム」

(SI-CAT)を、今年度から5年間で開始し、当研究所もその一員として加わることとなりました。

先日、そのキックオフ会合が国立環境研究所(つくば市)で開催され、長野県における適応策の社会実装の計画について発表をしてきました(写真)。当研究所はモデル自治体という役割を担い、さまざまな研究機関と共同で長野県における気候変動予測と、農業、防災分野における影響評価に取り組み、適応策の社会実装を進めるための体制を作っていきます。研究成果はできるだけ速やかに公表し、気候変動の影響や適応策について多くの方々と議論する場も考えています。ご期待ください。

(浜田 崇 kanken-shizen@pref.nagano.lg.jp)



写真 気候変動適応技術社会実装プログラムのキックオフ会合(発表者は筆者)

目次

・最近の話題「新たな気候変動適応策の研究がスタート!!」	1
・トピックス「畜水産食品中の残留動物用医薬品の検査」	2
・トピックス「光化学オキシダント測定中!」	3
・報告「人と環境のサイエンスカフェ in 信州を開催しました!」	4
・お知らせ「平成28年度の学習交流事業」	4